

えだまめ病害虫防除暦

JA庄内たがわ 令和8年(2026年)版

防除基準(登録薬剤)

2026年1月1日登録反映分にて作成

防除時期		対象病害虫	登録薬剤名	希釈倍率・使用量	水100ℓ ^{リットル} 当り薬剤量	使用時期	使用回数 (本剤または同一成分を含む剤)	使用方法	RAC コード	備考
病害虫	播種前	ネキリムシ類・アブラムシ類・タネバエ・フタスジヒメハムシ・茎疫病、苗立枯病(ピシウム菌)、紫斑病、リゾクトニア根腐病、黒根腐病、白絹病	クルーザーMAXX	原液8ml/乾燥種子1kg		は種前	どちらか1回	塗沫処理	E:4A F:12 F:4	500mlで1.8ha分 効果は30日程度。ハ、キジハトによる食害忌避にも登録あり。 使用量が微量のため薬量に注意して下さい。
		ネキリムシ類・アブラムシ類・タネバエ・フタスジヒメハムシ	クルーザーFS30	原液6ml/乾燥種子1kg		は種前		塗沫処理	E:4A	500mlで2.5ha分 効果は30日程度。 使用量が微量のため薬量に注意して下さい。
センチュウ対策	定植前	ダイズシストセンチュウ	ネマキック粒剤	20kg/10a		は種又は定植前	1回	全面土壌混和	E:1B	
害虫	定植時、は種時	ネキリムシ類、(タネバエ)	カルホス微粒剤F(劇)	6kg/10a		は種時又は定植時	1回	土壌表面散布 土壌混和处理	E:1B	タネバエは「は種時」のみ適用
病害	6月下～9月中旬	灰色かび病、菌核病	ロブラール水和剤	1,000倍	100g	収穫30日前まで	3回以内	散布	F:2	使用は開花前まで。収穫前30日を厳守する。
		紫斑病、莢汚損症	ゲッター水和剤	1,500倍	66g	収穫7日前まで	3回以内	散布	F:10 F:1	開花期から2回散布する。【重要防除のため必ず実施するようにしましょう】
		茎疫病、べと病	ランマンフロアブル	1,000倍	100ml	収穫3日前まで	3回以内	散布	F:21	
		茎疫病、べと病、斑点細菌病、葉焼病	フェスティバルC水和剤	600倍	166g	収穫前日まで	3回以内	散布	F:40 F:M01	
		べと病、斑点細菌病	クプロシールド	1,000倍	100ml	発病前～発病初期	—	散布	F:M01	野菜類で登録
		べと病	アミスター20フロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	散布	F:11	耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
		葉焼病	バリダシン液剤5	500倍	200ml	収穫7日前まで	3回以内	散布	F:U18	
		赤かび病	セイビアーフロアブル20	1,000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	散布	F:12	
害虫	7月上～9月上旬	カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシ、シロイチモジマダラメイガ、ハスモンヨトウ、ウコンメイガ、ダイズサヤタマバエ、ツメクサガ	トレボン乳剤	1,000倍	100ml	収穫14日前まで	2回以内	散布	E:3A	合成ピレスロイド剤(E:3A)は、抵抗性害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
		カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシ	アグロスリン乳剤(劇)	2,000倍	50ml	収穫7日前まで	3回以内	散布	E:3A	
		カメムシ類、ダイズサヤタマバエ、ハモグリバエ類、アブラムシ類、(フタスジヒメハムシ)	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50g	収穫7日前まで	2回以内	散布	E:4A	フタスジヒメハムシは3000倍で登録
		ハスモンヨトウ、マメシクイガ、オオタバコガ、ウコンメイガ、ハモグリバエ類、フタスジヒメハムシ、ハダニ類	グレーシア乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	散布	E:30	
		ハスモンヨトウ、マメシクイガ、オオタバコガ、ウコンメイガ	プレバソフロアブル5	4,000倍	25ml	収穫3日前まで	3回以内	散布	E:28	
		ハスモンヨトウ	マトリックフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	散布	E:18	
		ハダニ類、カメムシ類、ハモグリバエ類、マメシクイガ、コガネムシ類、インゲンテントウ、アザミウマ類、アブラムシ類	マラソン乳剤	1,000倍	100ml	収穫7日前まで	3回以内	散布	E:1B	豆類(未成熟)で登録
		ハダニ類、チャノホコリダニ	ダニトロンフロアブル	1,000倍	100ml	収穫7日前まで	1回	散布	E:21A	豆類(未成熟、ただし、さやいんげんを除く)で登録
		ハダニ類	コテツフロアブル(劇)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	散布	E:13	
		ハダニ類	コロマイト乳剤	1,500倍	66ml	収穫前日まで	2回以内	散布	E:6	豆類(未成熟)で登録
		展着剤		ワイドコート	10,000～3,000倍	10～33ml			添加	-

留意事項
・ハダニ類は高温乾燥の時期に発生が多くなるので注意する。

	適用雑草	登録農薬	10a薬剤使用量	10a希釈水量	使用時期	使用回数	使用方法	RAC コード	備考
除草剤	一年生雑草	コダールS水和剤	225～300g	70～100ℓ	は種後出芽前 (雑草発生前)	1回	全面土壌散布	H:5 H:15	※翌年復田予定地では使用しない 砂土除く
	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	150～200ml	100～150ℓ	雑草生育期イネ科雑草3～5葉期 (但し、収穫14日前まで)	1回	雑草茎葉散布 又は全面散布	H:1	イネ科選択性除草剤 ※翌年復田予定地では使用しない
	一年生雑草	ザクサ液剤	300～500ml	100～150ℓ	収穫14日前まで (雑草生育期 は種・定植前又は畦間処理)	3回以内	雑草茎葉散布	H:10	非選択性除草剤

適正管理対策

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
2. 適正な栽培密度とし、通風・作業性の改善を図る。
3. 圃地の適正な排水管理を行う。
4. 病害虫の温床となる罹病株また雑草は、病害虫の発生時期を考慮し随時除去する。
5. ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等を出来る限り使用する。

RACコード

- ・農薬ごとの作用性を分類したものを「RACコード」といい、製品ラベルなどに表示されています。
- ・農薬による耐性・抵抗性は、同一農薬、同一系統の薬剤の連用がその発生要因と考えられています。
- ・RACコードが同一であれば、有効成分が異なっても同一系統の薬剤なので、連用は避けなくてはなりません。

防除器具の洗浄不足対策

- ・防除器具は、前回散布後にじゅうぶん洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調製前にもう1度通水し洗浄しましょう。
- ・防除器具は使用后、通水で3回以上洗浄しましょう。
- ・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。